

宇原獅子舞の概要

宇原獅子舞は、姫路市から宍粟市山崎町までの線の伝播により継承されてきた毛獅子で、兵庫県宍粟市山崎町宇原にある宇原岩田神社と天神様に奉納しています。演目は12種類あり、ゆたんに馬の鬣を縫い付け、低い姿勢で生きた様に舞うのが特徴です。獅子は雄、雌、子の3体あります。

宇原獅子舞の太鼓の内側には万治3年(江戸時代1660年)に制作された銘があり、天神様で宇原獅子舞を奉納した記録が古文書に残っています。また、「山崎藩覚書帳」には、安政5年(1858年)に山崎町藩主の本多忠明が肥前守を命じられ、その祝賀会で披露したと記されています。

釣手の衣装は三番叟や着物など伝統的な衣装文化が継承され、篠笛は地域の篠竹を3年以上乾燥させ手作りして制作しています。

宇原獅子舞保存会では、持続可能な伝統芸術を実現するため、地域を超えた継承者や女性の参画、ICTを活用した練習・記録等DX化の推進を図ってきました。少子高齢化や人口減でも、伝統芸術が衰退しないよう、常に新しい時代を担えるシームレスな継承者の確保と育成、そして、伝統芸術の歴史的価値や学術的価値を残す役割を果たしていく所存です。

宇原獅子舞保存会
会長 竹内謙吉



太鼓：内側の銘



獅子舞：牡丹

奉納◆岩田神社
宍粟市山崎町宇原

宇原獅子舞

万治3年(1660年)から
360年以上に亘る伝承



宍粟市山崎町にある宇原地域の土地は、自然豊かで、先人たちは四季折々の作物が豊富に作れる土地に感謝をしていました。毎年の五穀豊穡と無病息災を祈願するため、宇原岩田神社と天神様に奉納してきた宇原獅子舞には、ふるさとを大切に思う気持ちが沢山詰まっています。そんな先人達の想いを後世へ伝えていければと願っています。

梯岡吉棒蝶道相之刀牡曲神宮
子崎野子引山丹舞楽入

山崎町指定文化財〈無形民俗文化財〉
「宇原岩田神社奉納獅子舞」

- ❖ 所在地 山崎町宇原929
- ❖ 所有者 宇原獅子舞保存会
- ❖ 指定年月日 昭和62年10月8日

UHARASHISHIMAIHOZONKAI
宇原獅子舞保存会

E-MAIL uharashishimai@yahoo.co.jp
U R L https://uharashishimai.net/



MOBILE SITE

笛と太鼓の音色に獅子が共鳴し伝統の鼓動が呼吸する

宮入

Miyairi



神事の始めとして舞台を清める舞いです。雄獅子と雌獅子の2頭が踊り子と金幣、銀幣に引連れられ、神前へ上っていきます。辿り着いた2頭は頭を下げ氏神へお参りをします。

牡丹

Botan



雌獅子が山の麓で牡丹の花を持った踊り子と軽快に舞います。獅子は踊り子の持つ鮮やかな牡丹の花に惹かれていきます。踊り子は花を操り、獅子を軽やかに舞わせます。

道引

Michibiki



獅子が山の中で生息している姿を繊細に表現した舞です。体を舐めたり、寝転んだり、踊ったり、獅子の自然な様子をご覧いただけます。

吉野

Yoshino



桜の咲く好季節に、雌獅子が山から野原へ遊びに下りてきたところ、野原では童子達が遊んでいました。獅子は小春に酔いしれ童子と一緒に遊びだします。

神楽

Kagura



雄獅子が氏神に五穀豊穡の感謝と氏子の安泰を祈願する舞です。獅子は口にくわえていた短刀を氏神に捧げます。祈りを込め立ち上がった獅子の高さは3mを越えます。

刀

Katana



お腹を空かせた雄獅子が山奥で一人の侍と出くわします。睨み合いついに死闘が始まります。獅子は侍に喰らいつこうとし、侍は決死の覚悟で獅子に斬りかかります。

棒

Bou



棒の達人が獅子を退治しようと、獅子の住む山に入り込みます。雄獅子を見つけた棒の達人は、巧みな技で獅子を叩き伏せ、腹を持ち上げ投げ飛ばします。一方、獅子も負け時と噛みついています。

岡崎

Okazaki



山里でお多福が搗り粉末を使って味噌をすっていると、雄獅子が匂いに釣られて現れます。お多福の窮地を見かねた猿が、助けに入ります。猿は自分の背丈程もあるしゃもじを振り上げ獅子を追い払います。

曲舞

Kyokumai



雌獅子が野原で踊っていた踊り子と一緒に楽しく舞います。踊り子は歌舞伎の世界で使われる三番叟の装束を身に纏いリズムに合わせて鈴と鉦を鳴らします。

相之山

Ainoyama



森を散歩していた雌獅子に2匹のいたづら好きな猿達がちょっかいを出します。猿達は獅子のお腹の下にもぐったり、尻尾を掴んだりします。遂に獅子は怒りだし猿達に襲いかかります。

蝶子

Tyoko



春先の晴れた日に菜の花畑で蝶をあやつる童子がいます。そこに雌獅子が現われました。童女は軽快に蝶をあやつり、獅子の気をそらせます。獅子は蝶を口で捕まえようと夢中になります。

様子

Hashigo



雄獅子が2匹の猿に導かれ、峻険の山へ登っていきます。やっとの思いで山頂に達した獅子は立ち上がり、神々に向かって歓喜の雄叫びをあげます。地上から高さ約5mもの梯子の上で行なわれる獅子舞は見ている人を驚愕させます。